

35、3,20徳山動物園の開設

徳山動物園の開設

徳山動物園は、黒神市長時代の昭和三十五年三月二十日、市制二五周年を記念して開園されたものである。動物園を含む徳山公園一帯は、かつての徳山藩主居館跡地であり、戦後には毛利球場(昭和二三～四六)および緑と桜の公園として市民に親しまれてきたが、市は三十三年度から三十五年度にかけての事業として徳山公園を整備し、緑地. 第1章市政のながれ

徳山市立動物園風景 児童遊戯施設・動物園などの新設を計画し、まず夫婦池を中心とする北側の毛利公園三〇〇〇坪の整備を終わり、つづいて市営動物園約九四〇〇坪の建設にとりかかり、三十五年に開園した。市営動物園を設置する動機あるいは目的については、三十二年三月の定例市議会における黒神市長の答弁や、三十四年十月の市議会で可決された「徳山市立動物園建設計画書」に明らかである。すなわち、動物園設置の要望は地区労連や教育関係者その他から出され、市当局も中型陳列方式の公営動物園について調査研究を重ねてきた。そして運営の目的については、「地域の教育・文化の向上につとめるとともに観光の一助とし、ひいては市民レクリエーションの場」とすることになった。



